

長岡地区納税貯蓄組合連合会長賞 優秀

病院の運営

長岡市立宮内中学校

三年 木間 瑠菜

私は最近税金の使い方を間違えている人がいると思います。今回は救急車を例として考えてみたいと思います。救急車も市町村の人々から集められた税金で困った人達を助けてくれます。しかし、不適正利用をしている人がいると応急処置が必要な人のところに行けなくなってしまいます。つまり、命にも関わる上に、税金の無駄遣いという大きな問題へと発展しかねません。

実際に救急車の不適正利用をされたことを例に出して考えてみましょう。

一つ目は、救急車ならすぐに診てもらえるからや、待合室で待つのが嫌だったからと言ったことで呼ばれた例です。確かに、救急車で行けば、すぐに診てもらえるでしょう。しかし、そのせいで適切な処置を受けることが出来ない人がいるかもしれません。この立場を自分に置き換えてみてください。あなたや、あなたの親しい人が命に関わるような大きな怪我や、病気を発病してしまい、救急車を呼んだが、なかなか来なくて、その裏では待つのが嫌だと言って救急車を呼んだ人がいたというこ

とを知ったらどう思いますか。少なくとも、いい気持ちがあるという人はいないと思います。なので、決して自分さえよければという考え方になってはいけません。

二つ目は、自転車で転んだからや、海水浴に行って日焼けした所がヒリヒリして痛いからと言った軽傷で呼ばれた例です。確かに怪我はしているかもしれませんが。しかし、病院に行っても特にすることは無いそうです。傷口を洗って消毒し、絆創膏をはって終わりだそうです。それだったら、わざわざ病院に行かなくても家でできます。なので、病院に行くことも、ましてや救急車で行くことの必要性はないのです。そう考えると、とてももったいないと思います。

最近救急車の有料化が検討されているようです。そうすれば不適正利用は減って行くと思いますが、逆に持病を抱えている人や、事故に遭ってしまったときなどにたくさんの方が困ってしまいます。なので私は、人の善意から出来た税金という制度はこれからも大切にすべきで、たくさんの方の善意を一人の考えで踏みにじっていいようなものではないことが改めて分かりました。

今回は病院の運営という題の中の、救急車の使い方というテーマで税金について考えてみました。ですがこの他にも税金の不適正利用の事例はあると思います。私が何かをきっかけに減らして行けるといいと思います。私は今回の作文がきっかけとなり、税金について、もっと考えられるようになりました。

最後に、皆が税金を理解して、適正利用をしてくれることを切に願います。